

大谷大学真宗総合研究所東京分室 公開シンポジウム 「書くこと」を通して宗教と社会を考える ー語りえないものを「書くこと」の意義に着目してー

2025年3月2日（日）14:00～17:20／ハイブリッド開催

大谷大学真宗総合研究所東京分室（所在：東京都文京区湯島）は、本学が社会に対して責任を有する研究分野において、若手研究者に研究機会と環境を提供しています。「現代と自分がどうかかわるか」「現代において自分はどのように生きていくか」を根幹とした研究テーマを持ち、一般の方々に理解される言葉で語ることのできる次代の研究者の育成をはかっています。

現在の真宗総合研究所東京分室では、人類にとって根本的な問いであり続ける、「どう生きるのか？」「どう死ぬのか？」という問題を主軸とし、宗教というフィルターを通して、社会に存在する、もしくは存在した様々な価値観の構造を明らかにすることを目指しており、当該研究の活動の一環として、この度公開シンポジウムを開催することといたしました。

つきましては、本イベント情報を紙面等に掲載いただき、告知にご協力いただきたくお願い申し上げます。

■公開シンポジウム概要■

本シンポジウムでは、「書くこと」に焦点を当て、宗教と社会のあり様を再考します。「書くこと」は、宗教において多様な意味合いを持ちます。仏教では、老病死の苦しみを課題とした釈迦の「ことば」が經典となり、とりわけ大乘經典では經卷の書写が推奨され、仏陀の「ことば」を「書くこと」に意識が向けられていきました。イスラム教では、「イラン革命のイデオログ」とされた宗教的知識人アリー・シャリーアティー（1933-1977）が「書くこと」は孤独や痛みの境地の中で自己と向き合い語ることと述べ、書くことを通して文化「伝統」を超えよう言葉の連鎖を生み出しました。また聖書の解釈学では、ガダマー（1900-2002）やリクール（1913-2005）が、読み手が自己の文脈においてテキストを解釈し、さらにテキストに参加していくことに着目しています。

今回、「書くこと」がどのように宗教や社会と関係しているのかを問いとして、とりわけ宗教的な「ことば」を「書くこと」がどのような営みなのか、さらには、いかなる場合に宗教的な行為となるのかについて議論を重ねていきます。語りえないものを、文字で「書くこと」の意義に着目することで、このような問いの解像度を上げることが本シンポジウムの目的です。

【開催概要】



開催日時：2025年3月2日（日）14：00～17：20

開催方法：対面・オンライン(zoom)ハイブリッド開催

事前申し込み：<https://forms.gle/pq33NCqQDQ7H5qkZ6>（2月25日締め切り）

会場：大谷大学響流館3Fメディアホール（〒603-8143 京都市北区小山上総町）

＊Zoomウェビナーを用いた対面・オンラインのハイブリッド方式で実施

【登壇者】

岡田 文弘（仏教学）身延山大学 仏教学部 文学・芸術専攻 特任講師

村山 木乃実（文学・宗教学）独立行政法人日本学術振興会 特別研究員PD（東京大学）

鍵谷 秀之（神学）同志社大学神学部特別任用助手

澤崎 瑞央（仏教学）大谷大学真宗総合研究所東京分室PD研究員

【コメンテーター】

箕浦 暁雄（仏教学）大谷大学文学部仏教学科教授

■研究意義・目的

多様な価値観を内包する現代社会において、様々な変化を強いられているなか、宗教のあり方もまた問われています。当然ながら、現代社会において、宗教が果たすべき役割やその可能性をより多角的な視点から見直すべきとの声も強まっています。そこで本研究は、宗教と社会との多種多様な関わり合いが見られる現代の東京・首都圏という場において、専門性を異にする研究員たちが各自のディシプリンに基づく独自の視点から、社会における宗教の役割を問い直すことを目的としています。

■研究期間を通しての目標・成果

人類にとって根本的な問いであり続ける、「どう生きるのか?」「どう死ぬのか?」という問題を主軸とし、宗教というフィルターを通して、社会に存在する、もしくは存在した様々な価値観の構造を明らかにすることを目指します。具体的なテーマとしては、生命倫理、道徳、性差、人権、秩序、死生観、メディア、政教分離、優生思想、多文化共生などを取り上げ、宗教との関係性を考察します。各年度に上記テーマに関連した研究会を開催することで当該問題に関する理解を深めるとともに、シンポジウムや研究会を開催して広く研究成果を大学の内外に向けて発信します。本年度は、サブテーマ「社会的なものとしての宗教」を設定し、「共生」を鍵概念に、私たちと宗教の多様な関係のあり方について考察し、宗教の役割を解明していきます。

東京分室長・PD研究員紹介

東京分室長 後藤 晴子（社会学部 准教授）

<PD研究員>

磯部 美紀（PD研究員・社会学）
澤崎 瑞央（PD研究員・仏教学）
鶴留 正智（PD研究員・真宗学）
高橋 泉（PD研究員・教育学）
藤井 麻央（PD研究員・宗教学）



< 詳細 > <https://www.otani.ac.jp/cri/sfpjr70000007lv6.html>



大谷大学（以下、本学）では、上記の通り公開シンポジウムを開催いたしますので、ご案内させていただきます。ご多用のところと存じますが、広く一般の皆様への告知につきまして、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

また本シンポジウムにつきまして、取材のご希望がございましたら、本学入学センターにご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。（取材対象は、澤崎瑞央（東京分室PD研究員）となります）

電話番号：075-411-8114 E-mail: nyushi-c@sec.otani.ac.jp

< 本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先 >

大谷大学 入学センター（広報担当） 後藤・北本・野路

TEL：075-411-8114 E-mail: nyushi-c@sec.otani.ac.jp

「書くこと」を通して宗教と社会を考える —語りえないものを

「書くこと」の意義に着目して—

登壇者 澤崎瑞央(大谷大学真宗総合研究所東京分室 PD 研究員)

「經典の書写と信仰:ブッダのことは書く意義に着目して」

岡田文弘(身延山大学仏教学部文学・芸術専攻特任講師)

「書くこと」から「生まれること」:『法華經』の周辺を探りながら

村山木乃実(独立行政法人日本学術振興会特別研究員 PD(東京大学))

「自己に向けて「書くこと」:現代イラン宗教的知識人による宗教の再解釈」

鍵谷秀之(同志社大学神学部特別任用助手)

「語りえないものを語る言葉」を実証的に書きうるか:解釈学的考察」

コメンテーター 箕浦暁雄(大谷大学文学部仏教学科教授)

日時 2025年3月2日(日)14:00~17:20(13:40 開場)

会場 大谷大学響流館3階 メディアホール

京都市北区小山上総町(地下鉄烏丸線「北大路駅」6番出口すぐ)

※ハイブリッド開催(Zoom ウェビナー同時配信)

※意見交換会あり(会費:4000円程度・大学周辺)

申込 事前申込制(2025年2月25日(火)締切)

参加申し込みはこちらから

▶<https://forms.gle/3KU7esVjCjbRjKrL6>



主催 大谷大学真宗総合研究所東京分室

東京都文京区湯島2-19-11 親鸞仏教センター4F

問合せ kenkyusyo_t@sec.otani.ac.jp